


災害教訓を未来につなぐ自然災害伝承碑

CONTENTS

1. 2023夏休み各種イベントを開催 2
2. UN-GGIM第13回会合への参加報告 4
3. 関東大震災から100年、災害教訓を未来につなぐ 5
4. 「富山県広域消防防災センタージュニア防災フェスティバル」に参加 6
5. 「自然災害伝承碑 」ウェブ地図「地理院地図」での公開数 7
6. 8月の報道発表・10月の主な行事予定 7

2023夏休み各種イベント開催

「地図と測量の科学館」（茨城県つくば市）では、こどもから大人まで幅広い年齢層の方々に向け、楽しみながら地図と測量を学んでいただける夏休みイベントを開催しました。

◆「こども霞が関見学デー」

8月2日と3日の2日間、国土交通省（東京都千代田区霞が関）において、「冒険！発見！国土交通省」をテーマに国土交通省に楽しくふれる「国土交通省こども霞が関見学デー」が開催されました。

国土地理院は「まるごとニッポン！～地図で学ぼう、クイズとパズル！～」と題し、「1/75万 日本列島余色立体地図」「3D分県パズル」「地図記号あてクイズ」など、楽しみながら学べるプログラムを出展しました。会場ではこどもだけでなく大人も余色立体地図や地図記号あてクイズに興味を持つ方が多く、楽しんでいただけた様子で両日とも盛況のうちに終了しました。



余色立体地図に興味津々！



3D分県パズルも大人気！

◆「地図と測量の科学館」夏休みイベント

今年の夏休みイベントは、「測量用航空機「くにかぜ」の機内公開」「地理院地図に触れてみよう!」、「距離を測ってみよう」、「夏休み地図・測量相談コーナー」を実施しました。

「測量用航空機「くにかぜ」の機内公開」は、8月9日、10日、24日に実施しました。雨天のため急遽中止となった日もありましたが、公開を楽しみにしていたたくさんの来館者で行列が出来るほど盛況でした。暑い中でしたが、小さなこどもから大人まで実際に操縦席に座って計器類を見たり、航空機の下から見える撮影用の大きなカメラを見たりと興味津々な様子でした。



行列ができた「測量用航空機「くにかぜ」の機内公開」

「地理院地図に触れてみよう!」は、8月9日、23日に実施しました。タブレットを使って国土地理院ホームページで公開しているウェブ地図「地理院地図」の詳しい使い方を説明しました。

つくば市役所付近の現在と過去の空中写真を見比べたり、地図と空中写真を重ねてみたり、ツール機能で面積を測ったり、断面図を見る方法を実際に操作したりし、参加者からは「おもしろかった」「こんな使い方があるとは知らなかった」「これから使ってみよう機能がたくさんあった」という声があり大変好評でした。



盛況だった「地理院地図に触れてみよう！」

「距離を測ってみよう」は8月10日、24日に実施しました。測量器械（トータルステーション）を使い目標までの距離と角度を実際に測ってみる体験で、小さな子どもも器械を覗いて一生懸命に測る姿が印象的でした。



一生懸命測る参加者

「測量用航空機「くにかぜ」の機内公開」雨天中止日には、代替イベントとして「日本列島地図一筆描き」も行いました。

お手本の日本列島を見ながら、北海道、本州、四国、九州の4島をそれぞれ一筆描きで描いてもらいコンピューターが採点しました。

親子で挑戦し点数を競い合ったり、「もっと高い点数をとりたい」と何回も挑戦する参加者がいたり楽しんでいただけたようで大変好評でした。

細かい部分まで丁寧に描く参加者が多く、採点の結果85点以上の優秀作品をたくさん展示することが出来ました。



大人も夢中!?「日本列島地図一筆描き」

「夏休み地図・測量相談コーナー」では、熱心に質問し課題をまとめようとする小学生から測量に関する多数の質問など幅広い相談がありました。



熱心に質問する小学生

「地図と測量の科学館」では、今後も様々なイベントを企画し、「地図と測量の科学館」のホームページなどで随時お知らせします。ぜひご来館ください。

▼「地図と測量の科学館」ホームページ

<https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/>

(総務部)

UN-GGIM 第13回会合への参加報告

国連経済社会理事会 (ECOSOC) に設置されている「地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会 (UN-GGIM)」では、地球規模の政策課題解決に必要な地理空間情報の整備と利活用に関し、議論、調整等が行われています。国土地理院は、2023年8月に国連本部 (米・ニューヨーク) で開催されたUN-GGIM第13回会合に我が国代表として参加しました。

今次会合は、8月2日から4日に対面形式で開催されました。80の国・地域及び国際機関等から約400名の専門家が参加し、国土地理院からは、おおきしやういち大木章一みやはらばさら国土地理院長、さとうゆうだい宮原伐折羅測地部計画課長、さとうゆうだい佐藤雄大企画部国際課長が出席しました。



参加国との意見交換



各議題への日本からの介入

「災害のための地理空間情報及びサービス」の議題では、UN-GGIM 防災作業部会の共同議長を務める大木国土地理院長が同作業部会を代表して報告書の概要について発表を行いました。同作業部会の活動をさらに活性化させるための今後の作業計画見直しについて報告し、加盟国から多数の肯定的なコメントを得ることができました。

「地球規模の地理空間情報管理体制の強化」の議題では、UN-GGIM の体制強化やそれを議論する体制に対する日本の考え方を主張すべく発言を行いました。また、その他の議題においても、UN-GGIM の地域委員会である防災作業部会及び国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会 (UN-GGIM-AP) への貢献を歓迎することや、ドイツの「地球規模の測地連携拠点 (GGCE)」の設立を歓迎すること、UN-GGIM の測地小委員会の取組を支援していくこと等の発言を行いました。

また、7月31日、8月1日及び第13回会合の合間に、議題に関連するサイドイベント等が開催されました。国土地理院はジャマイカとともに、防災作業部会の共同議長として同作業部会のサイドイベントを対面・オンライン併用形式で主催したほか、UN-GGIM 拡大ビューロー会合への出席、また、UN-GGIM-AP 副会長としてUN-GGIM-AP 会合への出席等、UN-GGIM における議論に貢献するとともに、今後の活動に必要な情報収集等を行いました。

本会合での会議文書等の情報は下記の国連 Web ページで公開されており、関連ドキュメントや会議の録画を参照することが可能です。

<https://ggim.un.org/meetings/GGIM-committee/13th-Session/>

国土地理院は、引き続きUN-GGIM やUN-GGIM-AP に参加し、積極的に国際活動を推進してまいります。

(企画部・測地部)

関東大震災から100年、災害教訓を未来につなぐ ～関連する自然災害伝承碑を合計147基公開～

9月14日、関東大震災に関連する自然災害伝承碑の掲載数が147基（自然災害伝承碑全体の合計数は1,995基）となりました。これらの碑の分布や伝承内容を読み解くことで、各地域の災害特性を考えた防災・減災の重要性が認識され、住民の防災意識向上に繋がることが期待されます。

国土地理院では、自然災害伝承碑を地図に掲載し、災害教訓を周知・普及する取組を行っています。令和元年6月の公開開始以来、市区町村の申請や都道府県・地方整備局等の情報提供により掲載数を着実に増やしており、9月14日時点で全国47都道府県575市区町村1,995基となっています（図1）。

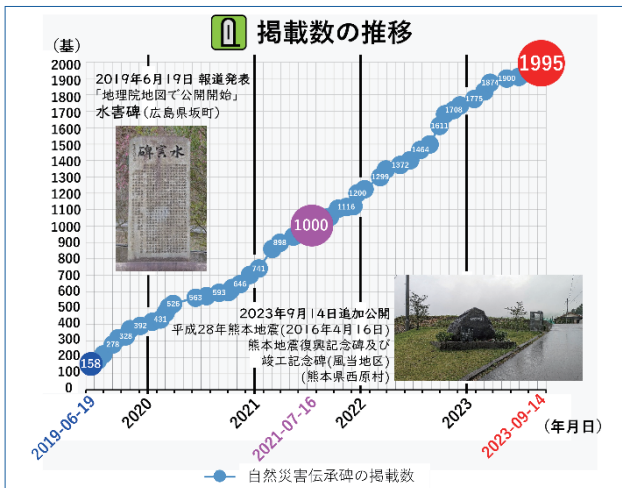


図1 自然災害伝承碑 掲載数の推移

関東大震災から100年となる本年は、7月以降、関東大震災関連伝承碑について新たに16市区町村42基を追加公開し、掲載数は147基となりました。これまでに掲載のなかった東京都南部や神奈川県東部で登録されるなど、掲載数の増加に伴って、より一層、関東大震災を伝承する自然災害伝承碑の地域的な広がりを確認することができます。なお、関東大震災の教訓を伝承する碑の存在は確認できていますが、現時点では未掲載の地域も一部あります。引き続き、掲載に向けて取組を推進していきます。

関東大震災関連の碑の分布を見ると、人口と建物が密集する東京都心では地震により発生した火災、地震断層に近く猛烈な揺れが襲った神奈川県西部では土砂災害、伊豆半島東部では津波災害が集中していることが把握でき、地域によって災害様相が異なることがわかります（図2）。

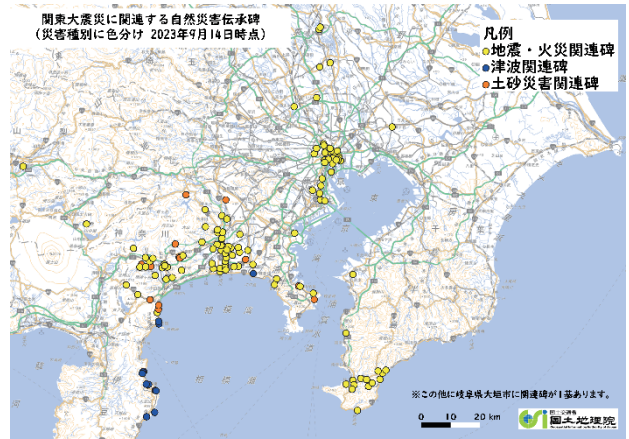


図2 関東大震災関連の自然災害伝承碑分布図

神奈川県秦野市にある関東大震災を伝承する自然災害伝承碑「寺田寅彦の句碑」は、地震の強い揺れによって発生した土砂崩壊が川をせき止めることによってできた湖である震生湖のほとりに建立されています。寺田博士は多くの随筆を残したことで有名ですが、「山さけて 成しける池や 水すまし」と記されているこの碑の句は、揺れの強大さへの恐ろしさを伝えています（図3）。

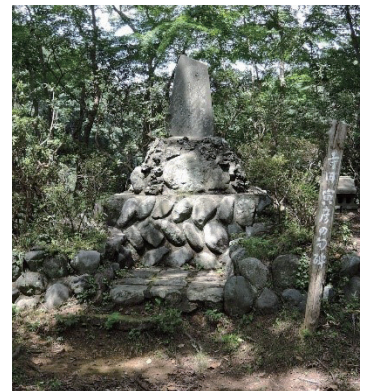


図3 寺田寅彦の句碑

自然災害伝承碑を通して見える関東大震災の様相とその伝承内容から、防災・減災の取組を改めて考え、災害教訓を未来に伝えていく機会となることを期待しています。

自然災害伝承碑のホームページ

<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/den-shouhi.html>

QRコードはこちら→



(応用地理部)

「富山県広域消防防災センタージュニア防災フェスティバル」に参加

北陸地方測量部では、8月11日（山の日）に開催された「富山県広域消防防災センタージュニア防災フェスティバル」（以下、ジュニア防災フェスティバル）に参加し、富山県広域消防防災センター（以下、センター）四季防災館3階で「地図と防災パネル展」を行いました。当日は、約1,500人（四季防災館全体では2,000人超）の方にご来場いただき、大変にぎわいました。

「ジュニア防災フェスティバル」は、富山県と（公財）富山県消防協会が主催で開催し、北陸地方測量部は、富山市消防局他6団体と共に協力団体として参加しています。センターの施設全体でイベントを開催し、普段見ることができない消防車両や装備の展示、様々な体験、ステージショーをとおして、県民の皆様には消防を身近に感じてもらう消防防災の意識啓発を目的としています。



入口のバルーンアーチ

北陸地方測量部のブースでは、国土地理院の仕事や防災対応の紹介を中心としたパネル展示、ガリバー地図（概ね5m×3mで印刷された余色立体地図）の床展示のほか、チャレンジコーナー（3D分県パズル、ちがいがさし等）を設け、見学者の方々に地図に親しんでいただきました。

展示した「自然災害伝承碑」のパネルでは、新しい地図記号があることに興味を示していただき、「神通川下流付近の地形分類（自然地形）」のパネルと合わせ、どんなところで被害が出やすく、過去にどんな災害があったのかを2つのパネルを使い説明したところ、「石碑を見たことがあるが、そういったことを伝承するために設置されているとは」と驚かれるとともに、「地理院地図を見て機会があれば自然災害伝承碑を見に行ってみよう」といった声も聞かれました。



自然災害伝承碑の説明

また、チャレンジコーナーでは、多くの家族連れでにぎわい、常に順番待ちが発生していました。ちがいがさしでは、実体鏡も使って地図の作成方法を説明するとともに、ちがいがさしのヒントを与えたところ、こども達にはちょっと難しいようでしたが、親御さんは感心して興味を持っていただきました。



パズルやちがいがさしに挑戦

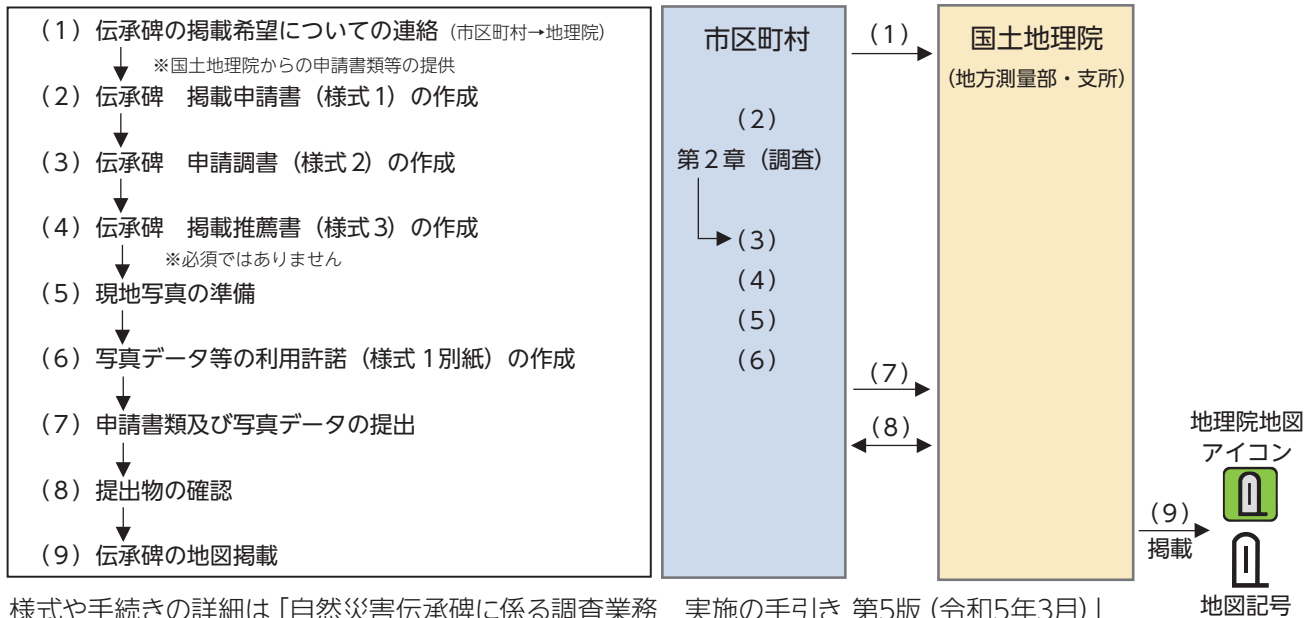
北陸地方測量部では今後とも、地域との関係を大切にし、地図・測量等の普及啓発のため、わかりやすく楽しい展示の取り組みを継続してまいります。

（北陸地方測量部）

47	都道府県	575	市区町村	1995	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ (<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>) をご覧ください。
【市区町村の担当者の皆様へ】 自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第5版 (令和5年3月)」
https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html をご覧ください。

8月の報道発表

8日	令和5年7月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
22日	令和5年度第2回 測量行政懇談会 基本政策部会の開催について	総務部
23日	令和5年度第1回 測量行政懇談会 流通・活用制度部会の開催について	企画部
24日	関東大震災から100年、災害教訓を未来につなぐ ～関連する自然災害伝承碑を合計145基公開～	応用地理部
24日	令和6年度 国土地理院関係予算概算要求について	企画部

報道の内容は、国土地理院ホームページ> 2023年 報道発表資料一覧
https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2023_00001.html をご覧ください。

10月の主な行事予定

7/19~10/1	地図と測量の科学館 企画展「関東大震災100年 —地図に残る地殻変動と被災状況—」
10/24~12/17	地図と測量の科学館 領土・主権展示館 地方巡回展示 in つくば会場 日本の「領土・主権」を考える 北方領土・竹島・ 尖閣諸島パネル展 地図と測量による領土の明示パネル展

国土地理院広報は、
 国土地理院ホームページ> 広報誌 > 国土地理院広報
<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/> に掲載しています。

発行 **国土交通省国土地理院**
 Geospatial Information Authority of Japan
 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
 TEL 029-864-6255
 FAX 029-864-6441
 連絡先：総務部広報広聴室
 国土地理院ホームページ
<https://www.gsi.go.jp/>
